



「小学生のころにラジオに出会い、いつかはラジオの仕事がしたいと思っていました。地元筑西市の話題を伝えられるなんて、とても幸せです」と話すのは、IBS茨城放送でレポーターを務める水越恭子さん。

### 伝える楽しさや魅力と 感じる責任

「ラジオの中継を聞いてリスナーが現場に駆けつけてくれたときや人の心を動かせたときは、成功したなって思います」と話す水越さんは、防災士の資格も取得し、防災レポーターとしても活躍しています。

東日本大震災や関東・東北豪雨、令和元年台風第19号などの被災地へ足を運び、防災に関する自治体の取組みや被災者の「今」を取材します。「聞いていた話と現地で実際に



目にしたものではありません。ギャップがあり、言葉を失うこともあります。でも、リスナーにとってはラジオからの声の情報が全てなので、慎重に言葉を選んで伝えていきます」と真剣な表情を見せます。

### レポーターである前に ラジオのいちファン

レポーターとしてのやりがいや魅力は、レポート以外にも多くあると言います。

地元のことも知らなかったことや初めて訪れる場所もたくさんあり、勉強になるそうです。取材先でさまざまな人に出

## 景色・空気・肌感を 声で伝える。

茨城放送でレポーターとして活躍する

みずこし 恭子さん  
(筑西市出身)

会い、つながりが増えていきます。「リスナーのみなさんからメールをいただくこともあり、地域のみなさんやリスナーのみなさんと作り上げていく、身近でリアルタイムなもの。これもラジオの魅力の一つだと思います。これからもラジオを通して、地域の魅力や現地の今を伝えて、一人でも多くの人に茨城の魅力を発信していきたいです」と水越さん。

レポーターである前にラジオのいちファンとして、熱い思いを語ってくれました。



スタジオで収録に臨む水越さん



IBS 茨城放送のホームページ、パーソナリティや番組情報など、詳しいことはこちらをご覧ください。